

大東文化大学 東洋研究所所報

2026.1 No.84

目次

巻頭言 「歩くこと、見ること、聞くこと、記録すること」

東洋研究所 兼担研究員 須田 敏彦 …… 1

2025年度 夏休み公開講座「中国古典小説の世界」… 2

2025年度 秋の公開講座 「アジアの民族と文化」… 3

2026年度 夏休み公開講座…………… 4

2025年度 東洋研究所刊行物 …………… 4

歩くこと、見ること、聞くこと、記録すること

大東文化大学 東洋研究所 兼担研究員 須田 敏彦

2023年3月にバングラデシュとインドの農村で行った現地調査の記録を、研究ノートとして『東洋研究』に3回にわたり掲載してもらった。調査地で拾い集めた庶民の姿や声を旅日記風にまとめたものである。『東洋研究』の募集原稿のジャンルにフィールドノートや現地報告がなかったため、掲載してもらえるか、投稿時は正直不安であった。内容がコロナ禍の影響の記録でもあったためか、特例として掲載を認めてくれた編集部に感謝したい。

私が現地調査の記録をこうした形で研究雑誌に投稿するのは初めてであった。農業経済学が私の専門だが、学生の頃から、余分な情報はそぎ落とし信頼できるデータとスキのない論理で読者をねじ伏せるような論文こそ優れた研究成果だと教えられ、考えてきた。そのせいか、本来旅行好きで南アジアを中心に農村調査を多くしてきたにも関わらず、現地で見聞きした情報の多くは記録にも残さず、数字を集めることに熱心だった。

そんな私が、数字では表現できない多様な情報の魅力に気づいたのは、コロナ禍の経験からである。コロナが世界に広まった2020年は私にとってサバティカル年で、世界のあちこちを訪れながら今までの研究成果を本にまとめる計画をしていた。ところが、世の中は海外どころか家のすぐ前の店に行くのも自粛という状況である。そこで、時間を持て余した私は、昼間は研究書や普段読まない小説を読み、夜は世界各地のテレビドラマや紀行番組を観て過ごすという生活を続けた。

その時読んだ本の中に、南アジアの記述も多いイブン・バットゥータの『大旅行記』や玄奘の『大唐西域記』、トルストイの社会派小説『復活』などもあった。そして、これらの旅行記や小説の中に描かれる当時の社会状況や自然環境、庶民の暮らし・思考など雑多な情報の描写に心を惹かれた。それが、数字では表わせない人々の生活や社会状況を、読者に生き生きと伝える力を持っていたからである。

私が頻繁に現地調査で触れる南アジア農村の社会や人々、そして風土を、こうした紀行文や文学作品のように自分も表現できないかと思うようになったのは、やはりコロナ禍の中の出会いからであった。一年間家族以外の人とほとんど接触することなく暮らしていた私だが、ひょんなことから『農民文学』という小さな文芸誌の会員になった。それがきっかけとなり、南アジアの農村で見聞きすることを記録に残し発表することで、私が調査地で触れる社会や人々の姿を読者に生き生きと伝えることができるかもしれないと考えたのである。

こうして2023年3月、コロナ禍が収束に向かう中で海外調査を再開した時、バングラデシュとインドでの現地調査の成果を敢えて加工度の低いフィールドノートとしてまとめることにした。日本を発ってから戻るまで、常にノートを手元に置き、見たり聞いたり考えたことを、時には道に立ち止まって書き留めた。こうして出来上がったのが、『東洋研究』に掲載したベンガル農村のフィールドノートである。

このフィールドノートには高い学問的価値がある、あるいは優れた文学だ、と言う自信は正直ない。しかし、こうした記録は、コロナ禍の中で読んだ様々な旅行記や小説、あるいはテレビで観た海外ドラマのように、多くの人が知らない地域の社会状況やそこで暮らす庶民の生活と考える情報源として、また後世に残す記録として、なにがしかの役に立つのではないかと密かに期待している。私のような地域研究者にとって、現地を歩き、見て聞いて集めた生の情報を同時代の人々に伝えたり、記録として残すことも重要な責務に違いない。それは、今後AIが更に進化しても、人間にしかできないことである。歴史ある『東洋研究』に、今後もこのような調査記録の発表の場になってもらいたいというのは、的の外の期待であろうか。

(すだ としひこ 東洋研究所 兼担研究員・国際関係学部国際関係学科教授)

2025年度 夏休み公開講座 「中国古典小説の世界」

2025年度 東洋研究所 夏休み公開講座は、「中国古典小説の世界」を統一テーマに開催された。各講座（全3回）の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2025年7月19日（土）10：30～12：00 大東文化大学板橋キャンパス 2-0221 会議室

テーマ：中国古典小説の世界への招待

講師：小塚 由博（東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学文学部中国文学科教授）

中国の古典小説のうち文言小説（書き言葉で書かれた小説）は、歴史作品が源流の一つとされている。そもそも小説とは現在では一般的に英語の Novel の訳語で、いわゆる我々が普段読んでいる小説のことである。しかしこの語は、今から2000年以上前の中国では「つまらない話」（『莊子』）という意味であった。最初は出来事をそのまま記すだけであったものが、六朝時代の志怪（怪奇現象を記した）小説や志人（実在の人物を記した）小説から、更に唐代の伝奇（珍しいことを記した）小説に至って、現在の物語性を有した小説が作られるようになった。以降、文言小説は文人たちによって数多く作られていった。本講座では、中国古典小説の変遷と代表的な作品を紹介した上で、その発展の一例として明・瞿佑『剪灯新話』に収められた「牡丹灯記」の源流について解説した。



◇第2回 2025年7月26日（土）10：30～12：00 大東文化大学板橋キャンパス 2-0221 会議室

テーマ：中国古典小説の展開

講師：荒井 礼（東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学文学部中国文学科非常勤講師）

「中国古典小説の展開」と称して、文言小説が時代ごとにその文体がどう変化していったのかを見た。まず、晋代の志怪小説と唐代の伝奇小説を比較した。その最大の違いは構成にあることを確認した。前者はあくまでも事実の記述であり、起こった事象の記録のみにとどまるが、後者は張られた伏線を回収するなど物語性が強くなっており、現代の小説に近いものとなっていた。

次いで、記録に徹する志怪小説にも個性があるのかを、清代の小説を中心に比較・検討した。原文の句読が切れる位置・収録される話の内容・構成などに注目すると、『聊斎志異』は最も晋代の志怪小説に近い文体で、構成は伝奇小説に似ていた。『閱微草堂筆記』・『子不語』は句数の整った文体で、前者は教訓めいて、後者は伝奇小説風の内容で、いずれも作者の個性に沿ったものであった。

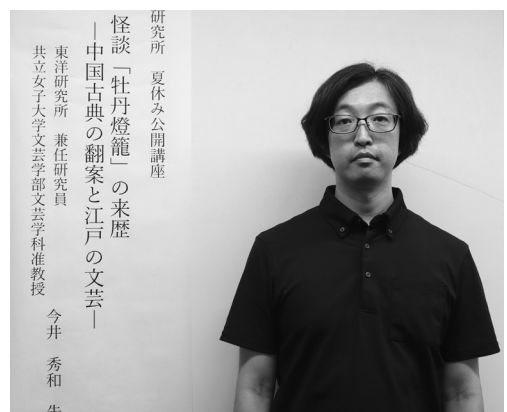


◇第3回 2025年8月2日（土）10：30～12：00 大東文化大学板橋キャンパス 2-0221 会議室

テーマ：怪談「牡丹燈籠」の来歴 ―中国古典の翻案と江戸の文芸―

講師：今井 秀和（東洋研究所 兼任研究員・共立女子大学文芸学部文芸学科准教授）

江戸期の文芸作品には、中国古典を典拠とした上で、話の舞台となる場所や時代、登場人物の設定などに変更を加えたものが多くあり、こうした方法を「翻案」という。たとえば明代の瞿佑『剪灯新話』に載る怪談「牡丹燈籠」は、物語の舞台を日本に移したかたちで浅井了意『伽婢子』所収「牡丹燈籠」に翻案された。また百物語系怪談集にも「牡丹燈籠」の翻案が散見されるが、そこには燈籠が登場せず牡丹堂なる霊廟に変更されるなどの工夫が凝らされている。さらに「牡丹燈籠」は江戸期の翻案を介して明治期の落語、三遊亭圓朝『怪談牡丹燈籠』へと結実し、その語り口は二葉亭四迷『新編浮雲』の文体に採り入れられた。江戸期における漢文小説の受容は、様々なかたちで近代小説にも影響を与えているのである。



2025年度 秋の公開講座 「アジアの民族と文化」

2025年度 東洋研究所 秋の公開講座は、「アジアの民族と文化」を統一テーマに開催された。各講座（全3回）の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2025年11月13日（木）13:00～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：中国・習近平政権の特徴と今後の展望

講師：鈴木 隆（東洋研究所 専任研究員・教授）

2025年度の秋の公開講座は、中国の習近平政権について計3回のシリーズ講演を行った。初回の講座では、第二回（社会）と第三回（外交）のテーマに関する理解の見取り図を得るため、中国政治の全般的状況を解説した。

2012年に中国の最高指導者となった習近平氏は、個人集権の推進と権力闘争の勝利を経て、今日では、中国の政治・経済・外交・軍事などのあらゆる政策分野において大きな影響力を発揮している。講演では、習氏の政治認識とリーダーシップの特徴、国政運営の基本方針などに焦点を当てて、拙著『習近平研究: 支配体制と指導者の実像』（東京大学出版会、2025年、第37回アジア太平洋賞大賞）のエッセンスを説明した。合わせて、最近の習氏の権力動向や台湾問題の見通しなどにも言及した。



◇第2回 2025年11月20日（木）13:00～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：データで見る中国社会——“老百姓”のフツウの暮らし

講師：菱田 雅晴（東洋研究所 兼任研究員・法政大学名誉教授）

日韓を遥かに上回る「内巻」（＝過剰、過酷な競争）により、1%の富裕層が3割もの資産を占有するまでに貧富の格差が拡大し、毛沢東時代の格差解消努力も帳消しとなるほどに勝ち組と負け組への両極分化が進んでいることをデータで示した。ひとびとがそれまで信じてきた「努力は報われる」という“公正世界信念”が揺らぎ、弱者は不安と諦念心理に苛まれ、驚くべきことに勝者と目される幹部層、ビジネスエリート層にも弱勢意識が浸透している。この不安心理に由来するさまざまな行動パターンを紹介した上で、勝者からは負け組には負けるだけの理由がある筈だとの自己責任論、被害者非難が広がることから、現代中国社会に強者と弱者の「新たな階級対立」が生まれつつあるという視座を紹介した。



◇第3回 2025年11月27日（木）13:00～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：習近平政権下の日中関係——現状（戦後80年）と展望

講師：諏訪 一幸（東洋研究所 兼任研究員）

本報告では、以下の4点を指摘しました。第一に、習近平氏が総書記に就任した2012年11月時点での日中関係が、その直前に起きた尖閣「国有化」を巡り、「国交正常化以降最悪」ともいわれる深刻な状況に陥りつつあったことを指摘しました。第二に、習氏の世界観は「西側による和平演変」に対する恐怖心に支配されていること、氏の対日認識の深層には下関条約で台湾を「奪い取った」ことに対する「屈辱」心が通底していることを指摘しました。第三に、習氏政権下の13年に及ぶ日中政治関係は、「高まる緊張と関係改善の動き」→「止まる関係改善の流れ」→「米中対立激化の狭間で漂泊」という流れにあることを指摘しました。そして最後に、習近平政権下での対中関係には「長期的視野と強靱な忍耐力」が必要であることを指摘しました。



2026 年度 夏休み公開講座

東洋研究所では、2026 年度は「中国の天文学」をテーマに夏休み公開講座の開催を予定しております。本講座では、高校生・大学生以上の年齢層を対象に、アジアを中心とした諸地域を研究対象とする当研究所の研究員が、テーマに沿って平易かつ具体的な解説を行います。定員は 30 名、受講料は無料です。都合により講師の順番が入れ替わることもあります。

日 程 (予定)	講 師 (予定)	テ ー マ (仮)
2026 年 7 月 18 日 (土) 10:30 ~ 12:00	東洋研究所 専任研究員 准教授 田中 良明	天地の形をどう考えたのか
2026 年 7 月 25 日 (土) 10:30 ~ 12:00	東洋研究所 専任研究員 准教授 高橋あやの	天象を観、星座を識る
2026 年 8 月 1 日 (土) 10:30 ~ 12:00	東洋研究所 兼担研究員 文学部歴史文化学科准教授 新居 洋子	地動説はいつ伝わったのか？

■会場：大東文化会館 K-0302 研修室 (予定)

■交通：東武東上線『東武練馬駅』下車徒歩 3 分

◆詳細な内容 (日程、会場、定員) が決定しましたら、追って大学ホームページ等に掲載いたします。

2025 年度 東洋研究所刊行物

- ・『東洋研究』 第 236 号 (2025 年 7 月 25 日発行) 第 237 号 (2025 年 11 月 25 日発行)
- 第 238 号 (2025 年 12 月 25 日発行) 第 239 号 (2026 年 1 月 26 日発行予定)
- ・『藝文類聚 (巻五十四) 訓讀付索引』 (東洋研究所研究班 2026 年 2 月発行予定)
- ・『『天文要録』の考察 [五]』 (東洋研究所研究班 2026 年 2 月発行予定)

※ この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行図書取扱店

■東方書店業務センター

〒 175-0082 板橋区高島平 1-10-2
TEL : 03-3937-0300 FAX : 03-3937-0955
E-mail : tokyo@toho-shoten.co.jp

■汲古書院

〒 101-0065 千代田区西神田 2-4-3 高岡ビル 4F
TEL : 03-3265-9764 FAX : 03-3222-1845
E-mail : kyuko@fancy.ocn.ne.jp

■大東文化大学内購買部 (株)進明堂書店

〒 355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560
TEL : 0493-34-4430 FAX : 0493-34-5622
E-mail : info-daigakuten@sinmeido.co.jp

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.84

2026 年 1 月 26 日発行

印刷：(株) 東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒 175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail : tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>